

2010年1月20日

グラクソ・スミスクライン株式会社

報道関係各位

GSK、世界最貧国の人々に新しい、有効な治療薬を届けるための戦略を発表

- 「オープンラボ」を設立し、新たな研究のために800万ドルを投資
- 自由に活用できる**13,500**のマラリア治療薬の候補化合物を公表
- 顧みられない熱帯病に関する知的財産を共有するための新たな連携
- 世界で最も進んでいるマラリア候補ワクチンの持続可能な価格モデルを設定することを約束
- 「**GSK**アフリカ・マラリア・パートナーシップ」、**250**万ドル相当を4つの新たなプロジェクトに提供

グラクソ・スミスクラインplc (GSK) のCEOであるアンドリュー・ウィティアーは、世界の最貧国の人々に特に影響を及ぼしている疾患に対するGSKのアプローチをさらに拡充させる一連の新しい取り組みを発表しました。今回の発表は、2009年に発表したパートナーシップ、薬剤アクセスの拡大および顧みられない熱帯病への新たな研究の促進に基づくものです。

ニューヨークにおける外交問題評議会でのスピーチでウィティアー氏は以下の通りコメントしています。「GSKのCEOに就任してから業績の向上を目指した会社のビジネスモデルの変革に注力してきました。しかし同様に重要なのは、社会の期待に応えるだけでなく、期待を上回ることにより社会の信頼を得るという義務を果たすということです。」

「私たちは、どんなに困難な課題であろうと世界の最貧国における医療のチャレンジに取り組む真のパートナーでありたいと思います。達成したことに決して満足せず、常にもっと何かできないかを模索し絶えず努力を払う企業でありたいのです。」

「今回発表した取り組みは、GSKがより柔軟にオープンに対応し、積極的に学びたいとの姿勢を表しています。GSKは、世界クラスのパートナーと連携し、薬剤アクセスの向上を目指した新たなビジネスモデルを見出し、GSKが事業を展開している全てのコミュニティーに独自の解決策を提供で

きるよう取り組んでいきます。GSKは、人々に大きく貢献できる企業であり、世界の最貧国における医療の構図を変えることに努力を惜しみません。」

GSKのパートナーの1つであるMedicines for Malaria Venture (MMV)は、今回の発表を歓迎しています。MMVは、マラリアが蔓延している国々での負担の軽減に専念している非営利団体です。過去数年間MMVは、多くの財源、人的資源、知的財産をGSKとのパートナーシップに投資してきており、革新的な新規マラリア治療薬の開発に取り組んできました。

MMVのチーフ・サイエンス・オフィサーであるティモシー・ウェルズ博士は次の通り述べています。

「MMVは、GSKの新たな取り組みに参画できることを誇りに思います。これらの取り組みは、顧みられない疾患の研究開発に対する世界のアプローチを劇的に変える可能性を持つものです。」

「MMVとGSKの提携からスクリーニングのデータを共有することにより、研究コミュニティは、ヒトゲノムのデータベースに匹敵するくらい影響力のある公の知識の宝庫の構築に着手することができます。新規マラリア治療薬を緊急に見出す取り組みを改革する新たな動きとなるでしょう。」

「オープンラボ」を設立し、新たな研究のために800万ドルを投資

GSKは、その資源を共有するという昨年の約束を基に世界初の「オープンラボ」の設立を発表しました。「オープンラボ」は、顧みられない熱帯病に対する科学的な革新性を見出す中核的な役割を果たします。

「オープンラボ」は、GSKの研究所があるスペインのトレスカントスを拠点にし、世界各国の60名までの研究者がそこにアクセス可能となります。GSKのトレスカントスの研究所は、途上国特有の疾患に対する新薬の研究開発に取り組んでいます。

「オープンラボ」では研究者に、GSKの専門技術、知識、社内インフラを利用することを促す一方で、統合された創薬チームの一員として各々のプロジェクトを進めていきます。GSKは、研究資金を援助し、知識とアイデアの共有を推進するために800万ドルの投資を行い非営利団体を設立します。」

13,500 malaria compounds to be made freely available

自由に活用できるよう13,500のマラリア治療薬の化合物を公表

GSKは、所有する200万以上の分子から構成される薬剤化合物ライブラリーのスクリーニングを行い、主にサハラ砂漠以南で見られ、最も死亡率の高いマラリア原虫*P.falciparum*を阻害する分子を選定し

ました。この作業が完了するまで5年かかり、毎年アフリカで100万人の子供たちが犠牲となるマラリアに対する新しい革新的な薬剤の開発へとつながる13,500の化合物を見出しました。

GSKは、これらの化学構造や分析データを含む結果を自由に活用できるよう主要な科学関連ウェブサイトにて公表します。新たなマラリア治療薬開発のために製薬企業がこれほど多くの化合物の化学構造を公表するのはこれが初の試みです。

顧みられない熱帯病に関する知的財産を共有するための新たな連携

顧みられない熱帯病のための「知識プール」を築くというその取り組みを基にGSKは、この「知識プール」の管理を独立した第3者であるBio Venture for Global Health (BVGH)が担うことを発表しました。

またGSKおよびBVGHは、Emory Institute for Drug Discovery (EIDD)と覚書を交わし、この覚書の下EIDDは「知識プール」に参画し、更なる知識をはじめ化合物ライブラリーや他の資源を提供し、顧みられない熱帯病の新薬を見出すことに取り組んでいきます。

この他にも、GSKは南アフリカの会社であるiThemba Pharmaceuticals社と提携し、新たな結核治療薬の研究開発に取り組んでいきます。

世界で最も進んでいるマラリア候補ワクチンの持続可能な価格モデルを設定することを約束

GSKはまた、世界で最も開発が進んでおり現在7つのアフリカ諸国で後期臨床試験が行われているマラリア候補ワクチンRTS,Sの持続可能な価格を設定するための施策を発表しました。GSKとそのパートナーは、この臨床試験が良い結果をもたらし、初のマラリアワクチンとして承認されることを期待しています。

価格モデルは、ワクチンのコストをカバーすると共に小額の利益をもたらすもので、この利益の全ては第二世代マラリアワクチンあるいは他の顧みられない熱帯病に対するワクチンの研究開発に再投資されます。これによりマラリアおよび顧みられない熱帯病研究プログラムへの持続可能な長期的取り組みが確実に行われるようになります。

「GSKアフリカ・マラリア・パートナーシップ」、250万ドル相当を4つの新たなプロジェクトに提供

「GSKアフリカ・マラリア・パートナーシップ」は、サハラ砂漠以南のアフリカ諸国におけるマラリア予防やマラリア治療薬へのアクセス向上を目的として2001年に設立されました。以来マラリア対策に300万ドル以上が投資されてきました。

今回「GSKアフリカ・マラリア・パートナーシップ」は、アフリカで活動している以下の4つの非政府組織に合計250万ドルの新たな資金提供を発表しました。

- Save the Children – ケニアにおけるプロジェクト
- Family Health International – ガーナにおけるプロジェクト
- African Medical and Research Foundation (AMREF) –タンザニアにおけるプロジェクト
- Planned Parenthood Foundation of Nigeria –ナイジェリアにおけるプロジェクト

生きる喜びを、もっと Do more, feel better, live longer

グラクソ・スミスクラインは、研究に基盤を置き世界をリードする、医薬品およびヘルスケア企業であり、人々が心身ともに健康でより充実して長生きできるよう、生活の質の向上に全力を尽くすことを企業使命としています。

<参考>

2010年1月20日に開催された外交問題評議会で行われたウィティマー氏のスピーチの全文は、www.gsk.comでご覧ください。